

令和5年度 園評価・関係者評価書

園名	加西市立賀茂幼児園
----	-----------

1. 教育・保育目標

「こころ豊かに たくましく育つ子ども」 ◎明るく元気な子 ◎みんなと仲良くする子 ◎力いっぱいがんばる子
--

2. 本年度の重点目標

心豊かに自分らしさを発揮し 主体的に生活する子どもをめざして ～身近な自然や人とのふれあいを通し感動体験、協同経験、学びの体験を積み重ねながら～

3. 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	評価	改善の方策
園 運 営	○職員の資質向上 ・実戦的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	B	・今年度は限られた人員の中で新任研修を受ける職員が2人となかなか職員が揃って会議を行うことが困難な状況であった。職員間での共通理解は不可欠であるが、全員が揃ってというのは難しい。紙媒体や隙間時間を使っての話し合いも試行したが職員によって仕事の能率も様々。今後会議の持ち方が課題である。園内研修は引き続き次年度も継続し指導力の向上に努めたい。
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○幼児の主体性を大切にした指導 ○幼児一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫	A	・今年度の個々の保育の振り返りや、反省を通して課題や目標等を見つけ、次年度の指導計画等に活かしていく。 ・賀茂幼児園の園児数や特色を活かした内容や異年齢でのかかわり遊びを広げていく環境など、この園でしかできない細やかな保育を探りながら次年度も継続しながら進めていく。 ・地域の人の教育力を活かした保育内容を考えてながら教育過程を考えていく。
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・延長保育の実施	B	・昨年度から始めた未就園児の園庭開放をぜんぼうキッズなどと一緒にできるように充実してきたが、利用者数が一向に増えない。PRの仕方などをさらに考えながら地域に開かれた拠点となるように検討していく。 ・次年度も家庭教育講座や子育て相談等を行いながら子育てについて保護者に寄り添えるような方向性を示していきたい。 ・里帰り出産の1歳児の子どもの一時預かりを6カ月間受け入れた。これからも需要は多いので受け入れしていく。
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	A	・手洗い、うがい、消毒については、コロナに関係なく常時子ども達に指導していく ・ヒヤリハットについては、その都度職員間で話し合いをしながら安全策を考えながら危機管理能力を向上させていく。 ・熱中症については今年度は家庭へ対策を講じてプールのスタート時間を早めたり補水液等協力を依頼した。次年度も引き続き家庭と連携を図りながら安全対策を考えていく。
道 徳・人 権 教 育	○幼児の体験や経験を通した、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫	A	・地域の方の協力で栽培した野菜の成長を見たり世話をする収穫して食する等の体験活動を次年度も積み重ねていきたい。 ・散歩を通して地域の高齢者と触れ合えた経験から人を思いやる気持ちも育んでいきたい。 ・子どもたちの豊かな感性を育めるような保育環境の工夫を行うと共に保育者自身の感性も磨くことや人権意識の向上に心掛けていく。
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	A	・園が家庭や医療機関等、専門機関との連携に努め個々の思いに沿ったきめ細かな指導を行っていく。 ・保護者との連携を密にし個々の発達段階や課程を踏まえ、職員全員が共通理解したうえでの一貫した支援ができるように心掛ける。 ・支援を要する子どもや保護者の気持ちに寄り添ったサポートを心掛ける。
家 庭・地 域・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○小・中の連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流	A	・今年度は参観の人数制限もなくなった。次年度はより多くの方に園の様子を観ていただけるように参観の内容を検討していく。 ・今年度は小学校の交流回数がかなり増えた。小学生在が来園してくれた。今後も幼小交流を増やし5歳児が不安なく小学校に移行できるように次年度も検討していく。 ・地域の方々とは次年度も一緒に交流できる内容等を考えていきたい。 ・小・中・高生と今後も連携し合い、お互いに交流し合い刺激し合いながら、いい学びができるように考えていきたい。

4. 自己評価方法の適切さについての園関係者評価

・目の前の子どももありきで行事を組まれているので行事をみせていただいても毎回毎回工夫されていて、この子ども達にあった取り組みをされているのを感じた。 ・体験活動は子ども達にとって嬉しいと思う。 ・毎月送っていただいたクラスだよりを見させていただきながら、遊びや日々の生活の中から子ども達の成長の様子が伺えて嬉しい。 ・卒園式は本当に驚くことばかりで感動した。 ・図書コーナーの本が沢山ありいい本も沢山あるのでもっと活用した方がいいと思う。 ・4の評価の自己評価方法の適切さの文言は、おかしい総合的な感想等にすべき。
--

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・園の職員の人員が少ない体制が次年度も続くのか？それでは子どもの受け入れ体制ができない。このままの体制では子ども達を安全に保育することができないのではないか？園だけでは、どうすることもできないので市とも話し合い改善していく必要がある。
・与えられたものではなく自分たちで工夫して遊ぶことが大事。 しかし、その年齢年齢でできる、できないこともあるので背伸びして前倒しする必要もない。 ・次年度も外部講師を入れながら自分たちの資質向上に向けて学ぶという姿勢は大切である。
・加西市の広報は見ている人と見ていない人もある。 ・PRの仕方を考える。イベントなども取り入れながらこの園を見てもらって園を知ってもらい呼び込んでいく。オープンスクールだけでは園を知ってもらうには期間が短い。賀茂幼児園では年齢ごとの遊びもしてくれている。園だけでは難しいところもあり、こども未来課にも力を入れてもらう必要がある。
・小学校ではWBGT等を見ながら温度の高い日は外に出ないということをされているが、幼児園は出ている日もあった。年齢の小さい子ども達なので難しいところあるだろうが職員同士よく話し合って取り決めをされていく必要がある。
・野菜や生き物を育てることも大事ではあるが、人と人とのかわり、友達を思いやる、人を思いやる、うまく生活していく、様々な友達がいる中で集団作りの基礎ができていく。また、様々な人がいる中で社会性を学ぶ、園の中でどう生きたらいいのかを学ぶ。家族→大人→子どもは、いろいろなことを学ぶ、それでこそ集団の中に入れる意味がある。
・親はこの園を信頼して子どもを預けている。この頃の母親が一番しんどい。その気持ちを理解してあげないといけない。園は子どもを育てることが保育の精神かもしれないが担任は子どもを伸ばす事が大事園長、副園長は親の話を聞く事が大事。祖母等も人によっては自分の価値観を持っている人もあり母親もしんどくなってしまう。そういう気持ちを先生方が受け止めてあげないといけない。
・園がこういうことをしたいという提案があれば地域も協力しやすい。 ・園が主催になって、これに協力してほしいと言われるべき。 ・中学校のトライやる等は、ねらいがあって来ている。園は園の目的メリットがあって子ども達に、こういう力をつけたいという事があるなら地域に協力を依頼したら、していただけたと思う。ただ単に一緒にするというなら意味のないものになってしまう。 ・ふるさと創造会議もうまく使ってほしい。

